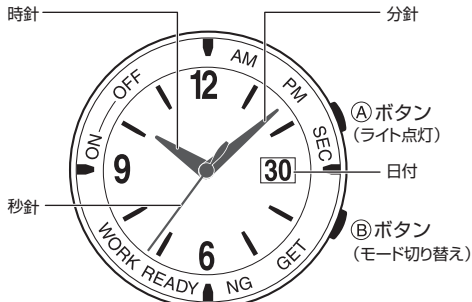


操作のしくみ

③ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。
※各モードのまま2～3分間すると、自動的に時刻モードに戻ります。

時刻モード



時針

分針

秒針

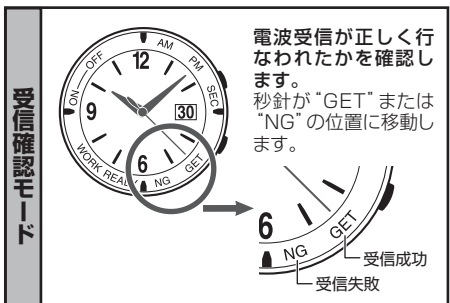
日付

① ボタン (ライト点灯)

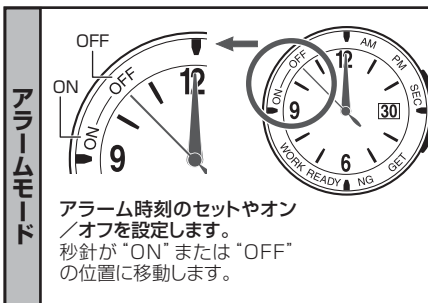
② ボタン (モード切り替え)

時刻が合っていないときは
通常、電波時計は正しく受信されていれば時刻合わせの必要はありません。もし、電波受信を行っても時刻が合っていないときは、「針の基準位置合わせ」をご覧ください。針位置を確認し、合っていないときは、針位置を合わせてください。

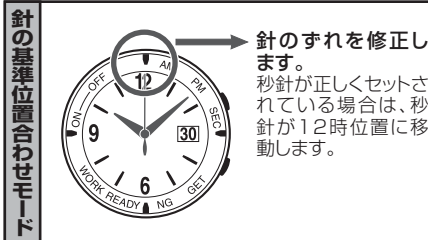
電波受信モード



アラームモード



針の基準位置合わせモード



電源について

安定してお使いいただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。


本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して機能が停止することがあります。

※二次電池が消耗して時計機能が停止すると時刻やアラームセット時刻は消去される場合があります。
※ライト点灯や報音のタイミングで、一時的に電圧が減少し、運針が停止する場合があります。この場合は、故障ではありませんので、光に当てて運針が再開するまでお待ちください。(時計内部では動いています、復帰後は正確な時刻を指します)

● 充電切れ予告


二次電池の容量が少なくなると、秒針が2秒運針を行ない、充電不足をお知らせします。

＜通常状態＞




1秒運針

＜充電警告状態＞



2秒運針

＜時計機能停止状態＞



針が12時位置で停止

＜注意＞
2秒運針中は、以下の操作はできません。
● 自動受信および手動受信
● ライト点灯
● アラームの報音

2秒運針状態のまま、午前12時になると、日付が基準位置へ移動。さらにバッテリーレベルが下がると秒針が12時位置で停止し、時・分針は午前または午後12時に運針を停止します。
※時計機能停止状態になっても再度充電を行なうと使用できます。
※時計機能停止状態から充電したときは、十分に充電されてくると針が現在時刻の位置まで移動します。
※通常状態になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

● 充電時のご注意

- 以下のような高温下での充電はお避けください。
- 炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
 - 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
 - 直射日光が長く当たって、高温になる所

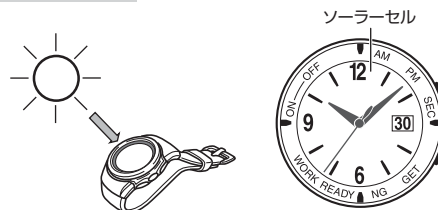


充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようご注意ください。

● 充電のしかた

本機のソーラーセル部を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますのでご注意ください。

例) 時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

● 充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作に加え、下記の条件で使用した場合に約4ヶ月動き続けます。

- 1日あたりの使用量
- ライト：1.5秒間
 - アラーム報音：10秒間
 - 電波受信：1回

なお、こまめに充電を行なえば、安定してご使用いただけます。
*基本動作とは、時計内部の時刻演算処理と針の運針動作のことです。

- 各レベルに回復するための充電時間

環境 (照度)	充電時間	
	運針開始まで	フル充電まで
晴れた日の屋外など (50,000ルクス)	約1時間	約12時間
晴れた日の窓際など (10,000ルクス)	約2時間	約61時間
曇り日の窓際など (5,000ルクス)	約3時間	---
蛍光灯下の室内など (500ルクス)	約30時間	---

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

〈1日動くのに必要な充電時間〉
※左記の条件で使用した場合。

環境 (照度)	充電時間
晴れた日の屋外など (50,000ルクス)	約6分
晴れた日の窓際など (10,000ルクス)	約30分
曇り日の窓際など (5,000ルクス)	約48分
蛍光灯下の室内など (500ルクス)	約8時間

ライト点灯について

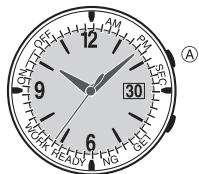
本機にはLEDライトがついており、暗いときにライトを発光させて時刻を見ることができます。また、時計を傾けると暗いときにライトが発光するオートライト機能もあります。

■ ボタンを押して発光させる ～手動発光～

時刻モードのときに

④ ボタンを押します

→ ④ ボタンを押すとライトが約 1.5 秒間発光します。



※ オートライトOFFのときも④ボタンを押すと発光します。

本機を振ると「カラカラ」と音がすることがあります。これはオートライト機能のためのスイッチ（金属球）が内部で動くための音で、故障ではありません。

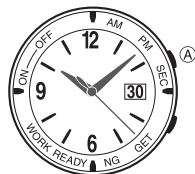
■ 時計を傾けて発光させる ～オートライト機能～

オートライトは、ボタンを押さなくても暗いときに時計を傾けるだけでライトが発光する便利なフルオートライト機能です。

※明るいときは、自動発光しません。

暗い場所で時刻などを見るときに大変便利です。オートライト機能では、どのモードのときでも、時計を傾げるだけでライトが約 1.5 秒間発光します。

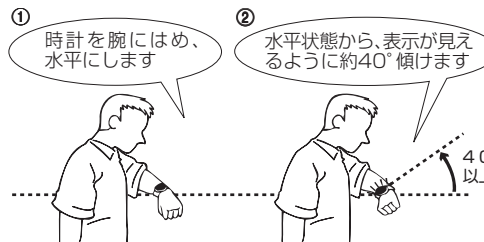
準備：受信確認モードのときに、④ ボタンを約 3 秒間押し続けて、オートライトON（ライト点灯）にします。



※ オートライトONのときは、受信確認モードで④ボタンを押してもライトが点灯します。

※ オートライトONのときに、受信確認モードで④ボタンを約 3 秒間押し続けると、オートライトがOFFに戻ります。

● ライトを発光させる



※ オートライト機能を使用するときは、時計を「手首の外側」にくるようにつけてください。

※ 文字板の左右（3時～9時方向）の角度を± 15° 以内にしておいてください。15° 以上傾いていると発光しにくくなります。



＜ご注意＞

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中に④ボタンを押したり、アラームなどが鳴り出すと発光を中断します。

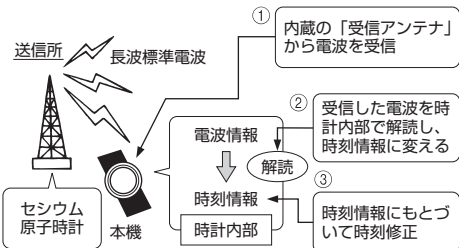
＜オートライトご使用時の注意＞

- オートライトを頻繁に使用すると電池の持続時間が短くなりますのでご注意ください。
- 時計が服の袖に隠れるようにつくと、明るいときでもオートライトが点灯することがあります。
- 時計を傾けたとき、ライトの発光が一瞬遅れることがあります。異常ではありません。
- ライト発光後、時計を傾けたままにしておいても、発光は約 1.5 秒間のみとなります。
- 2 秒連針になると、自動的にオートライトOFFになります。
- 時計を「手首の内側」につけていたり、腕を振ったり、腕を上にあげたりしても発光することがあります。オートライトを使用しないときは必ずOFFにしておいてください。
- ※ 時計を「手首の内側」につけるときはできるだけオートライトをOFFにしてご使用ください。
- 静電気や磁気などでオートライトが動作しにくくなり、発光しないことがあります。このときはもう一度水平状態から傾けなおしてみてください。なお、それでも発光しにくいときは、腕を下からふりあげてみると発光しやすくなります。

電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

■ 標準電波

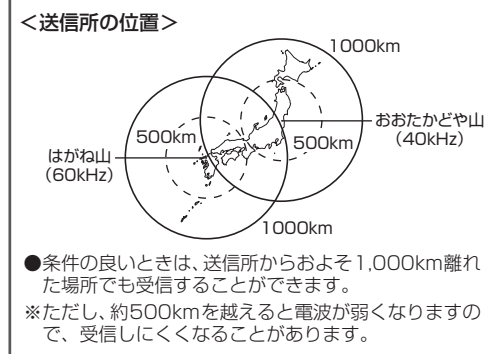
● 日本の標準電波（JJY）は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県田村郡の「おたかどや山標準電波送信所（40kHz）」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山標準電波送信所（60kHz）」から送信されています。

この標準電波は、ほぼ 24 時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。

■ 電波の受信範囲の目安

「おたかどや山標準電波送信所（40kHz）」と「はがね山標準電波送信所（60kHz）」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます（自動選局）。

※ 前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。



● 条件の良いときは、送信所からおおよそ 1,000km 離れた場所でも受信することができます。
※ ただし、約 500km を越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなる場合があります。

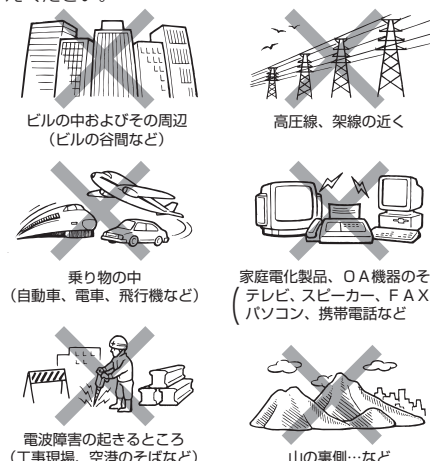
※ 受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによって受信できないことがあります。

※ 電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。

■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行ってください。

※ 電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

受信方法には、以下の2種類があります。

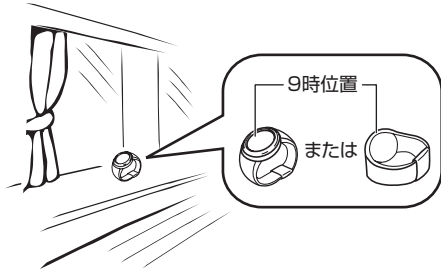
- ① 自動受信(午前12・1・2・3・4・5時に自動受信します)
- ② 手動受信(ボタンを押して手動受信します)

※自動受信は、1日に1度受信が成功すれば、その後の受信は行ないません。

※電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

● 受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計左側(9時位置のアンテナ)を外に向けて窓際に置いてください。



● 受信中、時計を動かさないようにしてください。

● 受信時間は？

受信時間はおよそ2～7分です。

● 手動受信

どのモードでも

Ⓑ ボタンを約2秒間押し続けます

→ 確認音が鳴り、受信を開始します。

★ 受信を中止するときは

いずれかのボタンを押します

● 受信開始

・秒針が「READY」位置に移動します。
 ※時・分針は通常通り運針します。

● 受信中

・秒針が「WORK」位置に移動します。
 ※時・分針は通常通り運針します。
 ※受信が完了するまで、時計を動かさないでください。

● 受信完了

・受信が成功すると、秒針が「GET」位置に移動し、1～2分後、修正された時刻に合わせて秒針が動き出します。
 ・受信が失敗すると、秒針が「NG」位置に移動し、1～2分後、受信操作前の時刻に合わせて秒針が動き出します。



● 受信結果の確認

時刻モードのとき

Ⓑ ボタンを押します

→ 受信確認モードになり、受信結果を表示します。受信が成功しているときは秒針がGET(成功)を指し、受信が失敗しているときはNG(失敗)を指します。

※時刻モードに戻すには、Ⓑ ボタンを3回押します。

※ボタン操作をせずに2～3分間すると、時刻モードに戻ります。



受信結果は午前12時にリセットされるため、それ以降に一度でも受信が成功していれば、GET(成功)を指します。

※自動受信が成功したあとに、手動受信が失敗しても、受信確認モードではGET(成功)を指します。

■ 受信に関するご注意

- 自動受信は時刻モードでのみ行なわれます。
- 針位置がずれていると電波を受信しても正しい時刻を示しません。
 もし、電波受信を行なっても時刻が合っていないときは、「針の基準位置合わせ」をご覧ください。針位置を確認し、合っていないときは針位置を合わせてください。
- 自動受信中にボタン操作を行なうと、確認音が鳴り、受信を中断します。
- 受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。
 ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯(昼・夜)などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。
 そのときは、再度受信を行なってください。
- 本機は日本で送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- 電波受信を行なわないときは、平均月差±20秒以内の精度範囲で動きます。
- 極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- 受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。
- 本機のカレンダー機能は2099年までですので、2100年以降は受信してもエラーとなります。

アラームの使い方

アラームは分単位でセットでき、セット時刻になると10秒間電子音が鳴ります。

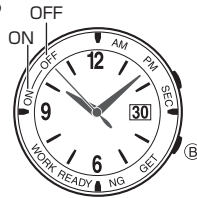
■ アラーム時刻のセット

1. アラームモードに切り替える

時刻モードのときに

Ⓑ ボタンを2回押します

→ 秒針が「ON」(鳴る)または「OFF」(鳴らない)の位置に移動します。



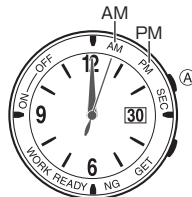
2. セット状態にする

Ⓐ ボタンを約5秒間押し続けます

→ 時・分針がセット時刻に移動し、秒針が「AM」(午前)または「PM」(午後)の位置に移動します。

※アラーム時刻のセット中は運針を行ないません。

例) 午前12時



3. セットする

針を時計が進む方向に回転させてセットする場合は

手順3-aに進みます。

針を時計が進む方向とは逆に回してセットする場合は

手順3-bに進みます。

アラーム時刻セットのとき、午前/午後にご注意ください。
 ※時針が12時位置を経過するごとに、秒針が指す午前(AM)/午後(PM)の位置が切り替わります。

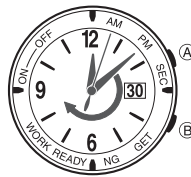
●●● 3-a. 時計が進む方向に針を進めるときは ●●●

Ⓑ ボタンを押します

→ Ⓑ ボタンを押すごとに1分ずつ進みます。

※ Ⓑ ボタンを約2秒間押し続くと、早く進み続けます。早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

※ セット後、Ⓐ ボタンを押してから手順4に進みます。



●●● 3-b. 時計が進む方向と逆に針を戻すときは ●●●

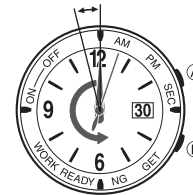
Ⓐ ボタンを押します

→ 分針が進む方向とは逆に1～2分動いてから元の位置に戻り、針の進む方向が切り替わります。

Ⓑ ボタンを押します

→ Ⓑ ボタンを押すごとに1分ずつ戻ります。

※ Ⓑ ボタンを約2秒間押し続くと、早く進み続けます。早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。



4. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

→ 時・分針が現在時刻に移動し、秒針が「ON」(鳴る)位置に移動します。

※ アラームセット後は、自動的にONになります。



5. 時刻モードに戻す

アラームモードのときに

Ⓑ ボタンを2回押します

→ 秒針が現在時刻の秒位置に移動し、1秒ごとに運針します。

・セット中、ボタン操作をせずに2～3分間すると、通常状態に戻り、運針を再開します。



■ アラームのON / OFF

アラームのON(オン) / OFF(オフ)はアラームモードで行ないません。

アラームモードのときに

Ⓐ ボタンを押します

→ 押すごとに秒針がONとOFFを移動します。



● 鳴っている電子音を止めるには
 いずれかのボタンを押すと音が止まります。

針の基準位置合わせ

電波受信を行っても時刻が合っていないときは、以下の操作を行なって針位置を確認し、合っていないときは、針位置を合わせてください。

1. 針の基準位置合わせモードに切り替える

時刻モードのときに

ⓑ ボタンを3回押します

→秒針の基準位置が正しい場合は12時位置まで移動します。

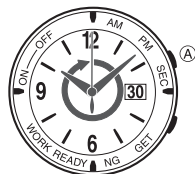


2. 秒針の基準位置合わせ状態にする

Ⓐ ボタンを約5秒間押します

→秒針が一回りして止まります。

※ 針の基準位置合わせ中は運針を行ないません。



3. 秒針の位置を確認する

秒針が12時位置で停止しているか確認します。

※ 秒針が12時位置以外で停止しているときは、秒針の基準位置がずれています。



秒針が12時位置にある場合は、手順5.に進みます

秒針がずれている場合

4. 秒針の基準位置を合わせる

ⓑ ボタンを押します

→ⓑ ボタンを押すごとに1秒ずつ進みますので、秒針の基準位置を12時位置に合わせます。

※ ⓑ ボタンを約2秒間押すと、早く進み続けます。早送りは秒針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。



時・分針が12時位置にある場合は、手順10.に進みます
時・分針がずれている場合

9. 時・分針の基準位置を合わせる

(時計が進む方向とは逆に針を戻して合わせる)

ⓑ ボタンを押します

→ⓑ ボタンを押すごとに1/6分(10秒)ずつ戻りますので、時・分針の両方を基準位置の12時位置に合わせます。

※ ⓑ ボタンを約2秒間押すと、早く進み続けます。早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

※ 正確に合わせるには、12時位置の少し手前で早送りを止めてから、ⓑ ボタンを押して微調整を行なってください。



10. 日付の基準位置合わせ状態にする

Ⓐ ボタンを押します

→日付の基準位置が正しい場合は日付が◀印まで回転して止まります。(最大90秒かかる場合があります)

※ ◀印は31日と1日の間にあります。



11. 日付を確認する

日付窓の中が◀印で停止しているか確認します。

※ 日付が◀印以外で停止しているときは、日付の基準位置がずれています。



日付が◀印のときは、手順13.に進みます

日付がずれている場合

12. 日付の基準位置を合わせる

ⓑ ボタンを押します

→ⓑ ボタンを約2秒間押して日付を早送りにします。早送りは日付が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まりますので、日付の基準位置(◀印)の少し手前で早送りを止め、ⓑ ボタンを数回押して合わせてください。



5. 時・分針の基準位置合わせ状態にする

Ⓐ ボタンを押します

→時・分針の基準位置が正しい場合は12時位置まで移動します。



6. 時・分針の位置を確認する

時・分針が12時位置で停止しているか確認します。

※ 時・分針が12時位置以外で停止しているときは、時・分針の基準位置がずれています。



時・分針が12時位置にある場合や、時計が進む方向とは逆に針を戻すときは、手順8.に進みます

時・分針がずれている場合

7. 時・分針の基準位置を合わせる

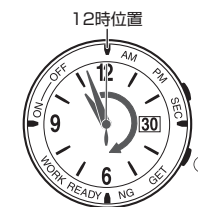
(時計が進む方向に針を進めて合わせる)

ⓑ ボタンを押します

→ⓑ ボタンを押すごとに、1/6分(10秒)ずつ進みますので、時・分針の両方を基準位置の12時位置に合わせます。

※ ⓑ ボタンを約2秒間押すと、早く進み続けます。早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

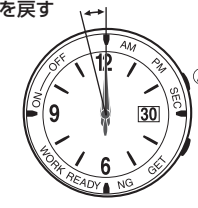
※ 正確に合わせるには、12時位置の少し手前で早送りを止めてから、ⓑ ボタンを押して微調整を行なってください。



8. 時計が進む方向とは逆に針を戻す

Ⓐ ボタンを押します

→分針が進む方向とは逆に1~2分動いてから元の位置に戻り、針の進む方向が切り替わります。



13. 基準位置合わせを終わる

Ⓐ ボタンを押します

→今日の日付に移動後、時・分針が現在時刻に移動します。
※ 日付、時・分針が動いているときはボタン操作を行なうことができませんのでご注意ください。



14. 時刻モードに戻す

ⓑ ボタンを押します

→時刻モードに戻り、秒針が現在時刻の秒位置に移動し、1秒ごとに運針を始めます。



・針の基準位置合わせ中、ボタン操作をせずに2~3分間すると、時刻モードに戻り、運針を再開します。

針の基準位置合わせが終わりましたら、電波の受信しやすい場所を選んで、手動受信を行ない、電波を受信させてください。

※ 詳しくは「●手動受信」の項目をご覧ください。

マニュアル時刻合わせ

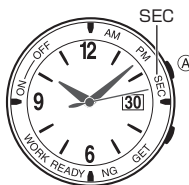
電波受信ができない場所では本機をお使いになる場合は、以下の操作で時刻を合わせることができます。

マニュアル時刻合わせをしているときに操作がわからなくなった場合は、2～3分間ボタン操作を行わずに放置し、秒針が1秒ごとに運針してから、再度マニュアル時刻合わせを行なってください。

2. 秒の修正状態にする

(A) ボタンを2回押します

→秒針が“SEC”の位置に移動します。
※時刻合わせ中は運針を行ないません。



3. 秒を合わせる (時刻モードに戻す)

時報に合わせて

(B) ボタンを押します

→分が1分繰り上がって、時刻モードに戻り、00秒から運針を再開します。
※時報は「時報サービス117番」が便利です。



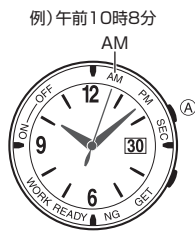
■ 秒合わせ

1. 時刻の修正状態にする

時刻モードのときに

(A) ボタンを約5秒間押します

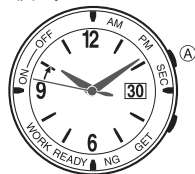
→秒針がAM (午前) またはPM (午後) の位置に移動します。
※ボタン操作をせずに2～3分間すると、通常状態に戻り、運針を再開します。



3. セットを終わる (時刻モードに戻す)

秒針が1秒ごとに運針するまで **(A) ボタンを6回押します**

→針が現在時刻の位置まで移動して、運針を再開します。



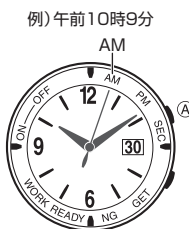
■ カレンダー合わせ

1. 時刻の修正状態にする

時刻モードのときに

(A) ボタンを約5秒間押します

→秒針がAM (午前) またはPM (午後) の位置に移動します。
※時刻合わせ中は運針を行ないません。
※ボタン操作をせずに2～3分間すると、通常状態に戻り、運針を再開します。



2. 日付の修正状態にする

(A) ボタンを3回押します

→秒針が12時位置に移動して止まります。



■ 時・分合わせ

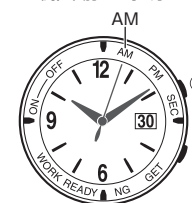
1. 時刻の修正状態にする

時刻モードのときに

(A) ボタンを約5秒間押します

→秒針がAM (午前) またはPM (午後) の位置に移動します。
※時刻合わせ中は運針を行ないません。
※ボタン操作をせずに2～3分間すると、通常状態に戻り、運針を再開します。
※時刻修正の状態のとき、(A) ボタンと(B) ボタンを同時に押すと、自動的に修正前の時刻に針が移動して、時刻モードに戻ります。

例) 午前10時9分



2. セットする

針を時計が進む方向に回転させてセットする場合は手順2-aに進みます。
針を時計が進む方向とは逆に回転させてセットする場合は手順2-bに進みます。

時・分合わせのとき、午前/午後にご注意ください。
※時針が12時位置を経過することにより、秒針が指す午前 (AM) / 午後 (PM) の位置が切り替わります。

●●● 2-a. 時計が進む方向に針を進めるときは ●●●

(B) ボタンを押します

→(B) ボタンを押すごとに1分ずつ進みます。
※(B) ボタンを約2秒間押すと、早く進み続けます。早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。
※セット後、(A) ボタンを押してから手順3に進みます。



●●● 2-b. 時計が進む方向と逆に針を戻すときは ●●●

(A) ボタンを押します

→分針が進む方向とは逆に1～2分動いてから元の位置に戻り、針の進む方向が切り替わります。

(B) ボタンを押します

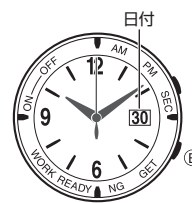
→(B) ボタンを押すごとに1分ずつ戻ります。
※(B) ボタンを約2秒間押すと、早く進み続けます。早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。



3. 日付を合わせる

(B) ボタンを押します

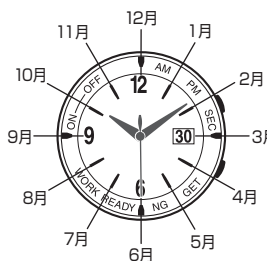
→(B) ボタンを押すごとに1日ずつ進みます。
※その月のない日付は自動的に通過しますので、月末などに日付を合わせたいときは、先に月を合わせてから、再度日付を合わせてください。



4. 月の修正状態にする

(A) ボタンを押します

→秒針が現在の月の位置を指して止まります。
※秒針の位置で月を表します。



5. 月を合わせる

(B) ボタンを押します

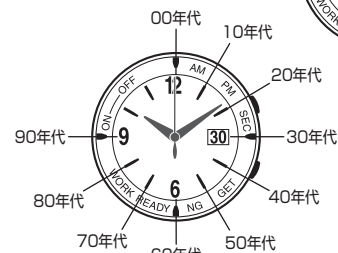
→(B) ボタンを押すごとに1ヶ月ずつ進みます。



6. 年 (10の位) の修正状態にする

(A) ボタンを押します

→秒針が現在の年 (10の位) の位置を指して止まります。
※秒針の位置で西暦の10の位を表します。



7. 年 (10の位) を合わせる

Ⓑ ボタンを押します

- ⇒ Ⓑ ボタンを押すごとに10年ずつ進みます。
- ※ 年は2000～2099年の範囲内でセットできます。



9. 年 (1の位) を合わせる

Ⓑ ボタンを押します

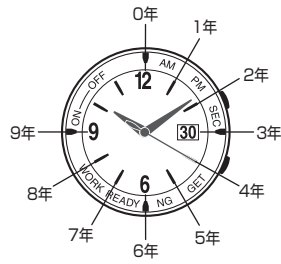
- ⇒ Ⓑ ボタンを押すごとに1年ずつ進みます。
- ※ 年は2000～2099年の範囲内でセットできます。



8. 年 (1の位) の修正状態にする

Ⓐ ボタンを押します

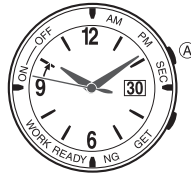
- ⇒ 秒針が現在の年 (1の位) の位置を指して止まります。
- ※ 秒針の位置で西暦の1の位を表します。



10. セットを終わる (時刻モードに戻す)

Ⓐ ボタンを押します

- ⇒ 針が現在時刻の位置まで移動して、運針を再開します。



★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。午前0時を過ぎると日付が自動的に切り替わります (月末は日付が切り替わるのに時間がかかる場合があります)。

パワーセービング機能について

本機にはパワーセービング機能がついており、暗いところに放置すると自動的に針の運針を停止してスリープ状態にし、節電する機能です。

※時計が袖などで隠れている場合でも、停止することがあります。

●スリープ状態になるには

- スリープレベル1
 - 午後10時～午前6時の間、暗いところで本機を約1時間放置します。
 - ⇒ 秒針がその場で停止します。
 - ※ 時・分針、日付表示は運針を継続します。
 - ※ アラームの報音は行ないます。
- スリープレベル2
 - スリープレベル1のまま暗いところで6～7日間経過します。
 - ⇒ 時・分針、日付はその場で停止します。
 - 自動受信は行ないません。
 - アラームの報音は行ないません。
 - ※ 時計機能は正常に作動しています。

●スリープ状態を解除するには

- 本機を明るいところに置か、いずれかのボタンを押すか、水平状態から文字板が見えるように時計を傾けます。
- ⇒ 時・分・秒針、日付が現在時刻および日付の位置まで移動して、運針を再開します。